国語 1　学校の取り組みをオンラインで紹介し合う

1　海風小学校の和田さんの学級では、深緑小学校と学校の取り組みをオンラインでしょうかいし合うことにしました。和田さんは、深緑小学校の村木さんとしょうかいし合おうとしています。次は、村木さんから事前に**【和田さんに届いたメールの内容】**です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【和田さんに届いたメールの内容】

あて先　△△△@△△△△△.△△.jp
件　名　オンライン交流について

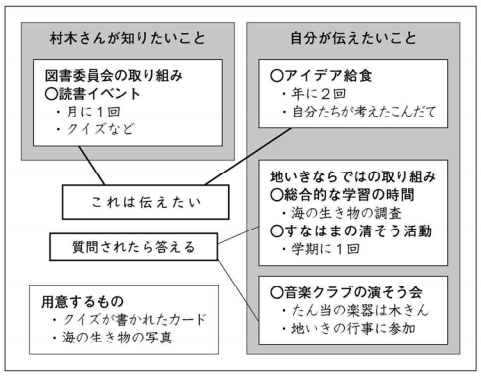
海風小学校　和田　みなみさん

はじめまして。
深緑小学校の村木です。わたしの学校は、全校で105人います。学校の周りには、茶畑が広がっています。
今、わたしががんばろうと思っていることは、図書委員として、本が好きな子を増やすことです。
オンライン交流では、和田さんの学校の図書委員会の取り組みを教えてほしいです。
当日を楽しみにしています。よろしくお願いします。

深緑小学校　村木　かおる

一　和田さんは、**【和田さんに届いたメールの内容】**を受けて、しょうかいする内容を、次の**【和田さんのメモ】**のように整理しました。和田さんは、どのように整理しましたか。その説明として最も適切なものを、下の**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

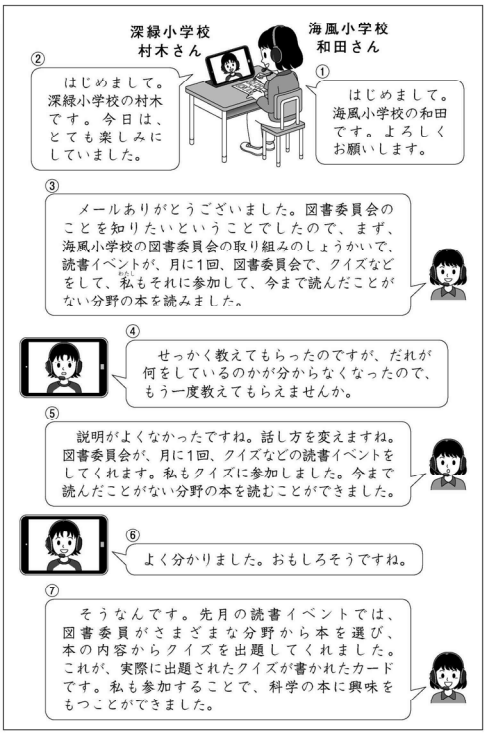
【和田さんのメモ】

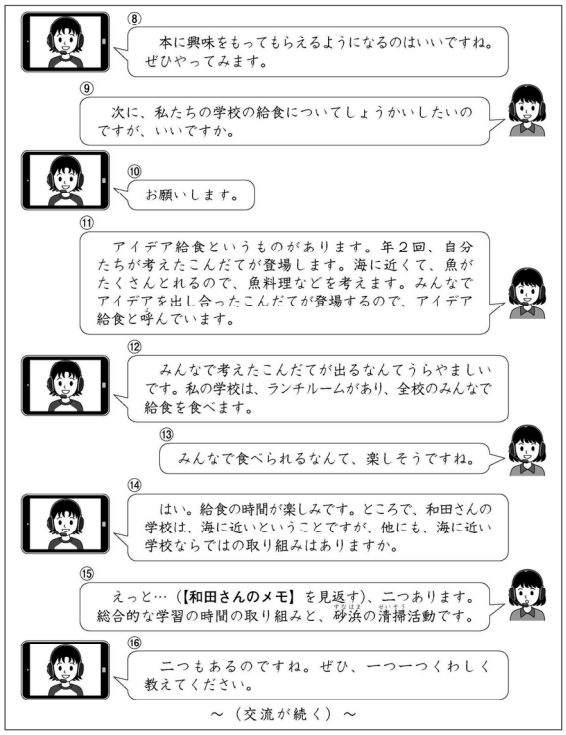


1　おたがいの学校の取り組みのよい点を比べて、伝えることを明確にした。
2　おたがいの学校の取り組みの問題点を比べて、伝えることを明確にした。
3　相手が知りたいことを取り入れて、優先して伝えることを明確にした。
4　自分が知りたいことを取り入れて、優先して聞くことを明確にした。

二　和田さんは、**【和田さんのメモ】**を生かして、村木さんとオンラインで交流しました。次の**【オンライン交流の様子の一部】**をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【オンライン交流の様子の一部】





(1) 和田さんは、村木さんの発言④を受けて、発言③の話し方を発言⑤のように変えました。和田さんが話し方を変えた理由として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 言葉の順序に気をつけて短い文で話したほうがよいことに気づいたから。

2 相手に応じて敬語を使ったほうがよいことに気づいたから。

3 まちがった情報をすぐに直したほうがよいことに気づいたから。

4 同じ音で異なる意味をもつ言葉を使わないほうがよいことに気づいたから。

(2) 和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。

2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。

3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。

4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

三 和田さんは、**【オンライン交流の様子の一部】**をふり返り、発言⑮のところで、**【和田さんのメモ】**が役に立ったことに改めて気づきました。その説明として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に関係する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。

2 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に関係する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。

3 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関係する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。

4 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関係する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。

出題の趣旨

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。

目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の材料を集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することが大切である。

本問では、海風小学校の和田さんと深緑小学校の村木さんが、学校の取り組みをオンラインで紹介し合う場面を設定した。和田さんは、事前に村木さんから届いたメールの内容を受けて、紹介する内容をメモに整理し、そのメモを生かして、村木さんと交流している。ここでは、和田さんの立場を通して、目的や意図、聞き手の求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えることが求められる。また、オンラインで交流する場面において、事前に整理したメモを生かして、聞き手の求めに応じて即興的に話し方を工夫することや、話し言葉と書き言葉の違いを踏まえた表現を工夫することも求められる。さらに、メモに整理したことが実際の交流場面において、どのように役立ったのかについて、ICT 機器を活用するなどして学習を振り返り、自覚することも求められる。

なお、本調査で初めて取り上げる内容に関する設問は、以下のとおりである。

○　設問一及び設問三では、第５学年及び第６学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の「話題の設定、情報の収集、内容の検討」に関する指導事項を取り上げている。この指導事項を本調査で取り上げることは初めてである。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第５学年及び第６学年〕　思考力、判断力、表現力等　A　話すこと・聞くこと

ア　意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動

設問一

趣旨

目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第５学年及び第６学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ａ　話すこと・聞くこと

ア　目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
1	一	1	**1**　と解答しているもの	21.2	
		2	**2**　と解答しているもの	7.8	
		3	**3**　と解答しているもの	62.6	◎
		4	**4**　と解答しているもの	7.5	
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	0.7	

２．分析結果と課題

○　本設問の正答率は62.6%であった。目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することに課題があると考えられる。

○　解答類型１は、和田さんが、お互いの学校の取り組みのよい点を比べて伝えようとしていると捉えており、相手が知りたいことを取り入れて、優先して伝えることを明確にしていることを捉えることができなかったと考えられる。この中には、**【和田さんのメモ】**に書かれた「自分が伝えたいこと」と「村木さんが知りたいこと」をお互いの学校の取り組みのよい点と捉えてしまった児童や、それらが並べて書かれていることで比較していると捉えてしまった児童がいたと考えられる。こうした児童においては、中学年において、集めた材料を比較するなどして、必要な事柄を選ぶ経験は積んでいるものの、本問で求められる目的や意図に応じて優先順位を考えるなど、伝え合う内容を検討する際に集めた材料を関係付ける力が十分に身に付いていないことなどが考えられる。

３．学習指導に当たって

目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する

○　話すことにおいては、自分の目的や意図に応じるとともに、聞き手の求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えることが求められる。また、話す際の材料の整理だけでなく、聞くこと、話し合うことにおいても、聞いたり話し合ったりすることを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことが重要である。

本設問では、和田さんが村木さんからのメールの内容を受けて、紹介する内容を**【和田さんのメモ】**に整理している。和田さんが自分の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、集めた材料をどのように整理しているかを捉えることが求められる。

学習指導に当たっては、交流する前に、話合いの目的や方向性、聞き手の求めていることを知り、それらを踏まえて、展開や内容を想定し、伝え合う内容を検討する場面を設定する

ことが重要である。その際、集めた材料を聞き手が知りたい内容と自分が伝えたい内容に整理したり、目的に応じて優先順位を考えたりできるようにすることが大切である。また、必要に応じて提示する資料を検討するよう促すことも考えられる。

具体的な授業の例として、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるようにする指導事例を**「授業アイディア例」**の**指導事例①**に示す。

設問二(1)

趣旨

話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第５学年及び第６学年〕　知識及び技能

⑴　言葉の特徴や使い方に関する事項

イ　話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
1	二(1)	1	**1** と解答しているもの	76.1	◎
		2	**2** と解答しているもの	6.7	
		3	**3** と解答しているもの	7.6	
		4	**4** と解答しているもの	8.8	
		99	上記以外の解答	0.2	
		0	無解答	0.6	

２．分析結果と課題

○　本設問の正答率は76.1%であった。今回の結果から、話し言葉と書き言葉との違いに気付くことはできていると考えられる。

○　解答類型２は、話し言葉の特質を踏まえ、相手に応じて敬語を使ったほうがよいと捉えており、和田さんが話し方を変えた理由として、村木さんの発言を受け、言葉の順序に気を付けて短い文に区切った話し方に変えたことを捉えることができなかったと考えられる。この中には、③と⑤のいずれの発言においても丁寧語で話していること、尊敬語や謙譲語を用いていないことを確認せず、相手と自分との関係を意識して、敬語を使ったほうがよいと考えた児童がいたと考えられる。

○　解答類型３は、話し言葉の特質を踏まえ、間違った情報をすぐに直したほうがよいと捉えており、和田さんが話し方を変えた理由として、村木さんの発言を受け、言葉の順序に気を付けて短い文に区切った話し方に変えたことを捉えることができなかったと考えられる。この中には、③の発言には間違った情報が含まれていないことを確認せず、正しい情報に言い直した方がよいと考えた児童がいたと考えられる。

○　解答類型４は、話し言葉の特質を踏まえ、同じ音で異なる意味をもつ言葉を使わない

ほうがよいと捉えており、和田さんが話し方を変えた理由として、村木さんの発言を受け、言葉の順序に気を付けて短い文に区切った話し方に変えたことを捉えることができなかったと考えられる。この中には、③の発言には同音異義語が含まれていないことを確認せず、話し言葉の特質を踏まえて、誤解されやすい同音異義語を避けたほうがよいと考えた児童がいたと考えられる。

３．学習指導に当たって

話し言葉と書き言葉との違いに気付く

○　話し言葉には、聞き手や場面の影響を強く受けながら表現や理解が進められるという特質があり、こうした特質に配慮しながら、書き言葉との使い分けを身に付けるための基礎を養うことが大切である。

本設問では、一対一でやりとりを行う場面において、話し手が聞き手の求めに応じて、即興的に話し方を工夫している。和田さんが発言⑤のように話し方を変えた理由が、言葉の順序に気を付けたほうがよいこと、短い文で話したほうがよいことの二つであることを捉えることが求められる。村木さんの「だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。」という発言を受けて、和田さんの発言③の伝わりづらさを捉え、和田さんの発言⑤で改善されたことに気付くことが大切である。

学習指導に当たっては、複雑な構文を避けた表現になっているか、聞き手や場面の状況を踏まえた発言になっているかなどを意識しながら交流するように指導することが重要である。その際、実際の交流を記録した動画や音声を文章に起こした資料を活用する場面を設定することなども考えられる。

具体的な授業の例として、設問**二【オンライン交流の様子の一部】**を資料として活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるようにする指導事例を**「授業アイディア例」**の**指導事例②**に示す。

設問二(2)

趣旨

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第５学年及び第６学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ａ　話すこと・聞くこと

ウ　資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
1	二(2)	1	１　と解答しているもの	27.7	
		2	２　と解答しているもの	53.1	◎
		3	３　と解答しているもの	2.9	
		4	４　と解答しているもの	15.4	
		99	上記以外の解答	0.3	
		0	無解答	0.7	

２．分析結果と課題

○　本設問の正答率は、53.1%であった。資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題があると考えられる。

○　解答類型１は、和田さんが、相手が興味をもっていることに気付いたことを捉えることはできていたが、用意していた実物を示しながら話したことを捉えることができなかったと考えられる。この中には、**【和田さんに届いたメールの内容】**を引用して話していると捉えた児童や、「そうなんです。」と相手の話を受け止めている状況を引用していると判断した児童もいたと考えられる。

○　解答類型４は、和田さんが、自分の体験を加えて話していることを捉えることはできていたが、相手が興味をもっていることに気付いたことを捉えることができなかったと考えられる。この中には、村木さんの発言⑥が「よく分かりました。おもしろそうですね。」と短い発言であったことなどから、村木さんが和田さんの話した内容に興味をもっていないと捉えた児童もいたと考えられる。

３．学習指導に当たって

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する

○　資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えることが重要である。また、実際に話す場面では、聞き手のうなずきや表情などにも注意しながら、聞き手の状況に応じて表現を工夫することが大切である。

本設問では、和田さんが、「よく分かりました。おもしろそうですね。」という村木さんの発言を受けて、相手が興味をもっていることに気付き、用意していた実物を示しながら話したことを捉えることが求められる。

学習指導に当たっては、相手や目的を意識しながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫するよう指導することが重要である。音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定することが大切である。その際、目的や意図に応じて資料の順番を変えたり、適切な時間や機会での資料の提示の仕方について検討したりする時間を設けると効果的である。

また、実際に交流する場面では、聞き手のうなずきや表情などの反応にも目を向け、適切な時間や機会を判断し表現することのよさに気付かせていくことが大切である。その際、聞き手の反応を見ながら表現している様子を、映像ややりとりのモデルなどで確かめることが効果的である。また、児童の実態に応じて、実際に交流する前に、聞き手の反応を確かめながら表現できるよう、やりとりの練習を行う時間を確保することも考えられる。

具体的な授業の例として、設問**二【オンライン交流の様子の一部】**を資料として活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるようにする指導事例を**「授業アイディア例」**の**指導事例②**に示す。

設問三

趣旨

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第５学年及び第６学年〕　思考力、判断力、表現力等　Ａ　話すこと・聞くこと

ア　目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
1	三	1	**1**　と解答しているもの	5.1	
		2	**2**　と解答しているもの	13.3	
		3	**3**　と解答しているもの	16.6	
		4	**4**　と解答しているもの	64.0	◎
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	0.9	

２．分析結果と課題

○　本設問の正答率は64.0%であった。目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題があると考えられる。

○　解答類型２は、複数の情報をまとめて伝えていることを捉えることはできていたが、自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関係する情報を整理していることを捉えることができなかったと考えられる。この中には、**【和田さんのメモ】**を見て、和田さんが相手の学校の「地いきならではの取り組み」に関係する情報を整理したと捉えた児童がいたと考えられる。

○　解答類型３は、自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関係する情報を整理していることを捉えることはできていたが、複数の情報をまとめて伝えていることを捉えることができなかったと考えられる。この中には、発言⑮において、和田さんが事実と感想を区別して伝えていると捉えた児童もいたと考えられる。

３．学習指導に当たって

目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する

○　伝え合う内容を検討する際には、聞いたり話し合ったりすることを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことが重要である。

本設問では、和田さんが**【オンライン交流の様子の一部】**を振り返り、**【メモ】**に自分の学校の「地いきならではの取り組み」に関係する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができたことに気付いたことを捉えることが求められる。

学習指導に当たっては、伝え合う内容を検討する際に、自分が伝えたいことと聞き手の求めていることに応じて情報を整理するよう指導するとともに、本設問のように、学習活動を振り返る場面を設定し、情報を整理することのよさを考えることができるようにすることが

重要である。その際、目的や意図に応じて聞き手が知りたいことを想定して、内容を検討することができたかという視点をもたせることが大切である。

なお、このような振り返りの場面においては、学習過程に沿って様々な学びや気付きが生まれることが想定される。それぞれの気付きを大切にし、共有することで理解を深めることが期待できる。

具体的な授業の例として、学習を振り返り、情報を整理することのよさのほか、資料を提示して話すことのよさ、オンラインを活用することのよさについての理解を深めることができるようにする指導事例を**「授業アイディア例」**の**指導事例③**に示す。

本問全体の学習指導に当たって

授業アイディア例

「春花小の６年生と町の魅力を紹介し合おう」 ～目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、 伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫する～	〈実施対象学年〉 第５・６学年

目的や意図に応じ、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られました。そこで、本授業アイディア例では、令和６年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語1に登場する「和田さん」の思考の流れに沿って、課題に応じた三つの場面を取り上げて、指導事例を紹介します。

指導事例①　目的や意図に応じて、話題を決め、伝え合う内容を検討する場面
指導事例②　自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるようにする場面
指導事例③　学習を振り返り、理解を深める場面

指導事例①　目的や意図に応じて、話題を決め、伝え合う内容を検討する場面

◇　夏草小学校の森川さんの学級では、春花小学校の６年生と町の魅力についてオンラインで紹介し合うことにしました。夏草小学校の森川さんは、春花小学校の島田さんと紹介し合おうとしています。

夏草町の魅力を伝えるには、この町ならではの特徴を選んで伝えるのが喜ばれるんじゃないかな。伝える情報は総合的な学習の時間に調べていたからたくさんあるな。

森川さん

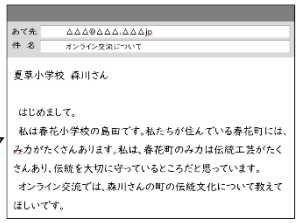
島田さんが知りたいと思っていることもあるだろうし、私が伝えたいこともあるし、どうすればお互いの町の魅力を時間内に紹介し合えるか悩んでいます。

教師

限られた時間で、自分の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて話すためには、伝える情報を整理しておくとよさそうですね。事前に、島田さんが求めていることについて尋ねてみましょう。　　※教師は事前に相手先の学校と打合せを行う。

【島田さんから森川さんに届いたメールの一部】

私は、春花町のみりょくは伝統工芸がたくさんあり、伝統を大切に守っているところだと思っています。オンライン交流では、森川さんの町の伝統文化について教えてほしいです。

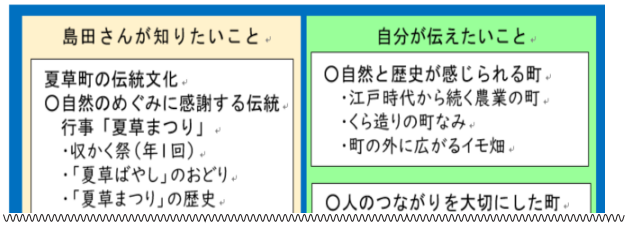

あて先　△△△@△△△.△△△jp
件　名　オンライン交流について

夏草小学校　森川さん

はじめまして。
私は春花小学校の島田です。私たちが住んでいる春花町には、みかがたくさんあります。私は、春花町のみかは伝統工芸がたくさんあり、伝統を大切に守っているところだと思っています。
オンライン交流では、森川さんの町の伝統文化について教えてほしいです。

【メールの内容を踏まえて、オンライン交流に向けたメモを作成する森川さんの様子】

島田さんが知りたいことと、自分が伝えたいことを整理したけど、情報量が多くなってしまいました。話す時間が限られているので、何から話すか迷っています。



森川さんは、相手が知りたいことと、自分が伝えたいことを整理することができました。でも、情報量が多くなってしまったそうです。限られた時間で話すために、皆さんからよいアドバイスはありませんか。

これだけは伝えたいということを先に決めるといいんじゃないかな。

伝える優先順位を考えて、内容や量を工夫するとよいと思います。

言葉だけで伝えると時間がかかることがあるので、写真などを用意してもよいですね。

【学級の友達からのアドバイスを踏まえて、メモを修正する森川さんの様子】

島田さんが知りたいこととして挙げていた夏草町の伝統文化のことを考えると、伝統行事の夏草まつりについては、必ず伝えたいな。

町の魅力を一番伝えられる特徴的な場所として、中心街の様子や、町の外に広がる景色を紹介したいな。

内容や量を工夫するとよいと言われたから、絶対伝えたいことは赤線を引いておこう。

これは伝えたいと思ったこの二つは赤線でつないでおこう。

時間が限られているから、この二つは、質問されたら答えることにしよう。

島田さんが知りたいこと

夏草町の伝統文化
○自然のめぐみに感謝する伝統行事「夏草まつり」
・収かく祭（年１回）
・「夏草ばやし」のおどり
・「夏草まつり」の歴史

自分が伝えたいこと

○歴史が感じられる町
・江戸時代から続く農業の町
・くら造りの町なみ
・町の外に広がるイモ畑

これは伝えたい

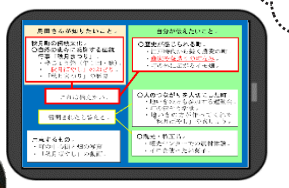
質問されたら答える

○人のつながりを大切にした町
・地いきの方も参加する運動会
・町の清そう活動
・地いきの方が作ってくれた「夏草ばやし」の衣しょう

○観光・特産品
・観光センターでの農村体験
・イモを使ったおかし

用意するもの
・町の中心街と畑の写真
・「夏草ばやし」の動画

言葉だけで分かってもらえなかった時のために、写真や動画を用意しておこう。



森川さん

限られた時間内で島田さんが知りたいことと、自分が伝えたいことを話すために、優先順位を考えて、メモの内容をもう一度整理してみました。

集めた材料を話す目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることができましたね。実際に交流する場面をイメージしてメモを見返してみましょう。

教師

ポイント

○　目的や意図に応じて、話題を決め、伝え合う内容を検討するためには、自分（話し手）が伝えたいことを明確にするとともに、相手（聞き手）の求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えることが求められます。その際、事前に、交流する相手と話合いの目的や方向性、互いの求めていることを共有するために打合せをしておくことで、「これだけは伝えたいこと」、「質問があれば答えること」など、より目的や意図に応じた交流となるように話す内容について検討することができます。

○　伝え合う際の状況を想定して話す内容に合わせて即興的に分かりやすく伝えられるよう、必要に応じて提示する資料を用意することも考えられます。

○　児童が様々なアイディアを出しながら伝え合う内容を検討できるようにすることが大切です。

指導事例②	自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるようにする場面

◇　森川さんたちの学級では、オンライン交流の前に、気を付けることについて話し合っています。

森川さん：　初めての相手とオンラインで交流するから緊張しそうだな。一対一でのやりとりでは、聞かれたことにはすぐに答えなければならないし…。どんなことに気を付けるとよいのだろう。

教師：　では、資料【オンライン交流の様子の一部】を読み、紹介する側はどんなことに気を付けるとよいのか、考えてみましょう。

資料【オンライン交流の様子の一部】

⑧　本に興味をもってもらえるようになるのはいいですね。ぜひやってみます。

⑨　次に、私たちの学校の給食についてしょうかいしたいのですが、いいですか。

⑩　お願いします。

⑪　アイデア給食というものがあります。年２回、自分たちが考えたこんだてが登場します。海に近くて、魚がたくさんとれるので、魚料理などを考えます。みんなでアイデアを出し合ったこんだてが登場するので、アイデア給食と呼んでいます。

⑫　みんなで考えたこんだてが出るなんてうらやましいです。私の学校は、ランチルームがあり、全校のみんなで給食を食べます。

⑬　みんなで食べられるなんて、楽しそうですね。

⑭　はい。給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いということですが、他にも、海に近い学校ならではの取り組みはありますか。

⑮　えっと…（**【和田さんのメモ】**を見返す）、二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜（すなはま）の清掃（せいそう）活動です。

⑯　二つもあるのですね。ぜひ、一つ一つくわしく教えてください。

～（交流が続く）～

深緑小学校　村木さん　　海風小学校　和田さん

①　はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願いします。

②　はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

③　メールありがとうございました。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいで、読書イベントが、月に１回、図書委員会で、クイズなどをして、私（わたし）もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④　せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤　説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に１回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥　よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦　そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

森川さん：　③の言葉は、少し長すぎて、聞いている人がよく分からなくなりそうだよね。

森川さん：　でも和田さんは、村木さんから指摘してもらって、⑤で短い言葉に区切って話しているね。話すときは、相手の反応も見ながら、短い言葉で話したほうがよさそうだね。

森川さん：　確かに短い言葉で話すことは大事だと思うけど、ぼくは④の村木さんのように「もう一度教えてもらえませんか。」と言われたら、あわてて同じように話しちゃいそうだな。

森川さん：　相手にちゃんと伝わるように、伝える内容を考えて話せるようにしたいね。⑪でも、和田さんは短い言葉に区切って話しているから、聞いている人も分かりやすいよね。

教師：　区切って話すよさには気付いているな。でも、相手の反応を確かめながら話している部分にも気付かせたいな。

村木さんの反応を受けて、和田さんが話し方を工夫しているところはありますか。

教師

⑦で実際に使ったカードを村木さんの反応を受けて見せているよね。どうしてこのタイミングで出したのかな。

確かに、このカードを用意していたなら、③のときから出していたらよかったんじゃない。

和田さんは、村木さんが話に興味をもったから出そうとしたんじゃないかな。村木さんが⑥で「おもしろそうですね。」って言っているよ。

和田さんが、相手の反応を見ながら資料を提示するタイミングを工夫したことに気付いたようだな。和田さんの話し方の工夫を、他にも気付かせたいな。

なるほど。他の部分でも、相手の反応を見て話し方を工夫しているところはありますか。

⑨で「給食について紹介したいのですが、いいですか。」と、相手の反応を確かめているところもいいよね。

私だったら、「次に～について紹介します。」と、自分が言いたいことをどんどん言っちゃいそう。和田さんのように一度相手に確かめることを大切にしたいな。

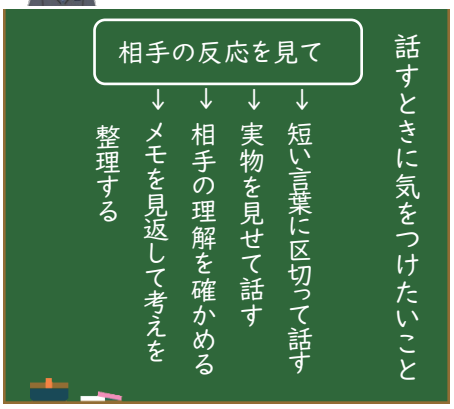
相手の反応を確かめながら話すことの大切さにも気が付いたみたいだな。子供たちから練習の時間がほしいという希望が出るかもしれないな。

⑮で「えっと・・・」と考えてから話しているところからも、村木さんの質問を受けて、一度メモを見返しながら質問に対する考えを整理しようとしているのが分かるね。

オンラインの時も、直接話すときと同じように、相手の反応を確かめながら話していくといいんだね。緊張しそうだから、ちょっと練習してみたいな。

～練習後～

よし。相手の反応を確かめながら話すことに気を付けて、オンラインで町の魅力を紹介しよう。



ポイント

○　実際にやりとりをする場面で表現を工夫するためには、相手や目的をより一層意識することが求められます。話し手は、聞き手の興味・関心や情報量などを予想したり、聞き手のうなずきや表情などの反応にも注意したりしながら話を進めることが大切です。

○　音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに、資料を提示しながら話すことも効果的です。

○　**【オンライン交流の様子の一部】**を映像化し、資料を提示して話すことのよさに気付くようにする方法もあります。「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」指導事例については、**令和３年度の授業アイディア例「わたしたちにできるＳＤＧｓを提案しよう」**で示しています。

○　本指導事例では話し手に焦点を当てていますが、双方向の交流では、聞き手の立場になることも意識できるようにする必要があります。

指導事例③	学習を振り返り、理解を深める場面

◇　森川さんたちの学級では、交流後に、自分たちの交流の様子を振り返ることにしました。

教師

町の魅力について交流してみてどうでしたか。
実際の様子を記録した動画(注)を見ながら、気付いたことを話し合いましょう。

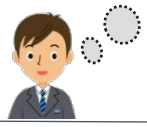
(注)実際のやりとりを同クラスの児童がタブレット型端末で録画記録

Ａグループの場合　メモに情報を整理したことのよさへの着目

予想していない質問をされたときに、メモを見返して答えていたところがよいと思ったよ。

そうだね。メモに情報を整理していたから、複数の情報をまとめて伝えることができたと思う。

情報の整理について、大事なところに気付いているな。実際の場面でも使えるように、掲示物にまとめて、教室に貼っておこう。



Ｂグループの場合　資料を提示して話すことのよさへの着目

児童の発言を取り上げて、教師が振り返りを促す。

いいところに気付きましたね。資料を提示した方が伝わりやすい場面として、他にどんな場面がありますか。

資料を示して話すことで、伝わりやすくなったと感じたよ。数字を伝える場面で、グラフを見せたら、よく分かりましたと言ってもらえたよ。

言葉だけでは伝わりにくい場面では、実物や写真、カードやポスターにまとめたものなどがあるとよいと思います。

Ｃグループの場合　オンラインを活用することのよさへの着目

オンラインを活用すると、離れている人ともすぐに交流ができて、とても便利だね。

オンラインでのやりとりにはメールという方法もあったね。他校の友達と学び合う時に役立てたいな。

このグループは、オンラインでの交流ならではのよさに気付きましたね。

オンライン交流をすることによって、他の町の魅力を知ることができておもしろかったね。

ポイント

○　学習を振り返る場面では、様々な気付きが出されることが想定されます。上記のＡ、Ｂ、Ｃグループの様子は一例です。教師は、各グループを回り、児童の気付きを価値付け、学級全体の学びとして広げていくことが求められます。児童の気付きを共有するには、例えば、タブレット型端末を活用する、板書にまとめる、掲示物にまとめて教室に掲示するなどの方法が考えられます。振り返りの場面で、児童の気付きを価値付け、学級全体の学びとして広げていく指導は、一人一人の理解を深めることにもつながっていきます。